

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

# 組織的ギャング集団の被害者にまつわる難民認定申請に関するガイダンス・ノート

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)

(2010年3月31日)

ジュネーブ

2010年3月、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) は「1951年難民の地位に関する条約」第35条および同条約「1967年議定書」第II条とともに、国連難民高等弁務官事務所規程およびその後の総会決議で規定された委任事項に従ってテーマ別の法律問題に関するガイダンス・ノートを発行する。国際的な法的基準、判例その他の関連文書を分析することによって、本ガイダンス・メモは、関係する個々のテーマにおけるガイダンスを提示することを目指している。ガイダンス・ノートは公開されており、Refworld (<http://www.refworld.org>) で一般に公開されている。本ガイダンスノートの内容に関するご質問は、ジュネーブのUNHCR国際保護部 (DIP) (HQPR02@UNHCR.ORG) にお問い合わせください。

## 目次

- I. はじめに
- II. ギャングとその活動の概要
- III. ギャング集団の犠牲者の類型
  - a) ギャング活動に対する抵抗
  - b) 現役、またはかつてのギャングメンバー
  - c) 国家の反ギャング政策活動の犠牲者および批判者
  - d) 家族
- IV. 法的分析
  - a) 迫害を受けるおそれがあるという十分に理由のある恐怖
  - b) 迫害の主体
  - c) 条約上の理由との関係
  - d) 条約上の理由
    - (i) 宗教
    - (ii) 人種および国籍
    - (iii) 「特定の社会的集団の構成員であること」
    - (iv) 政治的意見
  - e) 国内逃避の選択可能性
  - f) 適用除外
    - (i) ギャングに関する難民性の主張との関連で見た除外規定を適用すべき行為
    - (ii) 個人の責任

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

**Note:** In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

## V. 結論

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

## I.はじめに

1.世界にはギャングによる暴力が日常と化している国がある。地域全体が、ギャングとギャング文化によって支配されている場合がある。男性、女性、子どもも同様に暴力の影響を受ける。多くの犠牲者は仲間に引き込まれ、犯罪行為の実行役を課せられる若者たちである。本ガイドラインは、ギャング集団に直接または間接に関係する難民性の主張の評価に対する指針である。本ガイドラインは、ギャング集団とその活動の簡単な概要と、ギャングに関連した暴力の犠牲者にどのようなタイプがあるか説明する<sup>1</sup>。

2.ギャング集団（の存在は）世界各地にひろがっており、それにともなってギャング活動に関連した難民性の訴えが欧州や中米ほど離れた地域でも倍増している。近年、特にカナダ、メキシコとアメリカ合衆国で、とりわけ、出身国において暴力的なギャングによる迫害に恐怖を抱く若者たちが、庇護を求めるケースが増えている。<sup>2</sup>。そのため、

---

<sup>1</sup>For further information about gangs, see the background research for this Note: UNHCR, *Living in a World of Violence: An Introduction to The Gang Phenomenon* (publication forthcoming).

<sup>2</sup>For further information, see Washington Office on Latin America, “*Central American Gang-Related Asylum: A*

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

関係するリスクや法的問題を具体的に論じた本ガイドラインで準拠した例と法的問題はほとんどが、この特定の地域を念頭に置いている。本ガイドラインは、他の地域で起こっている類似の主張にも当てはまると考えられる。

3.本ガイドラインで取り上げる主な問題は、ギャング集団とギャング集団に関連した活動の犠牲者が、難民条約および1967年の議定書にもとづいて国際的保護を必要としていると解することができるかどうか、そして、解することができるのであれば、どのような事情のもとにおいてかである。

---

*Resource Guide*”, May 2008, [http://www.wola.org/media/Gangs/WOLA\\_Gang\\_Asylum\\_Guide.pdf](http://www.wola.org/media/Gangs/WOLA_Gang_Asylum_Guide.pdf) (hereafter “WOLA, *A Resource Guide*”); Capital Area Immigrants’ Rights, “*Seeking asylum from Gang-Based Violence in Central America: A Resource Manual*”, Aug. 2007.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

## II. ギャングとその活動の概要

4. 一般的に認められた「ギャング」の定義は存在しないものの、この語は、主たる目的または副次的目的として犯罪行為を行なう、2人以上のメンバーからなる一団を意味するために広く使用されている<sup>3</sup>。本ガイドラインの趣旨からして「ギャング」という語は、比較的継続的に存在し、主として路上に拠点を置く若者の集団であり、犯罪と暴力がそのグループのアイデンティティに不可欠な要素である集団を意味する。また、この語

---

<sup>3</sup>The U.S. Federal Bureau of Investigation, for instance, defines a gang as “a criminal enterprise having an organizational structure, acting as a continuing criminal conspiracy, which employs violence and any other criminal activity to sustain the enterprise.” See also Deborah L. Weisel, “*Contemporary Gangs: An Organizational Analysis*,” LFB Scholarly Publishing LLC, 2002, pp. 34–36.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

は、犯罪への関与が個人の利益(経済的利益またはその他の利益)を目的としており、それが主たる職業」となっている個人からなる犯罪組織の意味でも用いられる「ギャング集団」の概念は、犯罪行為に関与する自警団タイプの集団も包含する場合がある<sup>4</sup>。ギャングのメンバーは、共通の社会的、文化的、精神的な特徴を共有していることが多い。メンバーが、社会の疎外された層<sup>5</sup>、同じ社会経済的階級、または同じ年齢層の出身であることもありうる<sup>6</sup>。また、ギャングは、特定の民族や、政治的意見、宗教の違いに沿って組織される場合もある<sup>7</sup>。

5.一定の行動上の特徴から、ギャングを識別することができる場合がある。特定の個人だけが接触を認められ、許可されることから、排他性の特性によって定義できる場合もある。また、自分たちのアイデンティティを形成し確立する一環として、ギャングとメンバーが、他のギャングとの抗争に関与している。忠誠心が期待され、ギャング内でそうした忠誠心の期待が裏切られたと受け止められた場合、それによる制裁も存在する。一般的に、ギャングの構成員であることは、共通の服装、特定の服装規定の順守、ヘアスタイル、アクセサリや入れ墨その他の外見上の特徴によって示されている。しかし、最近では、多くのギャングは、活動を従来よりも秘密裏に行うために、こうした伝統的特徴を捨てる傾向がある。

---

<sup>4</sup>See “*State failure and extra-legal justice: vigilante groups, civil militias and the rule of law in West Africa*”: New Issues in Refugee Research, Research Paper No. 166, UNHCR Policy Development and Evaluation Service, <http://www.unhcr.org/cgi-bin/texis/vtx/search?page=search&docid=48f351722&query=State%20failure%20and%20extra-legal%20justice:%20vigilante%20groups,%20civil%20militias%20and%20the%20rule%20of%20law%20in%20West%20Africa>.

<sup>5</sup>See, for instance, about the Yakuza in Japan, Kristof, N. D., “*Japan’s Invisible Minority: Better off Than in Past, but Still Outcasts*”, New York Times, 30 Nov. 1995.

<sup>6</sup>The Committee on Economic, Social and Cultural Rights, in its Concluding Observations on El Salvador, E/C.12/SLV/CO/2, 27 June 2007, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/46b9d7532.html>, expressed concerns that the Maras are “composed mainly of socially and economically marginalized young men”.

<sup>7</sup>For further information about different types of gangs, see, for instance, Immigration and Refugee Board of Canada, *Kenya: The Mungiki sect; leadership, membership and recruitment, organizational structure, activities and state protection available to its victims (2006–October 2007)*, 1 Nov. 2007, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4784def81e.html>; Immigration and Refugee Board of Canada, *Croatia: Treatment of Muslims and Muslims of mixed descent by skinheads, nationalist and racist groups; availability and accessibility of state protection for Muslims (1995-2004)*, 18 May 2004, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/41501c160.html>; U.S. Bureau of Citizenship and Immigration Services, *Jamaica: Jamaican Posses*, 22 Sep. 1999, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6a6a10.html>; Anderson, A., “*The Red Mafia: A Legacy of Communism*”, *Economic Transition in Eastern Europe and Russia: Realities of Reform*”, ed. Lazear, P. Edward, Stanford California, The Hoover Institution Press, 1995.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

6.しかし、ギャングの個々の組織と文化は非常に多様である。1つのギャング内のメンバーは、ある出来事をどう受け止め、対応するかを決定する共通のメンタリティを持つ傾向がある。このメンタリティの中心は、沽券（respect）という概念と、沽券の無視（disrespect）と受け止められる行為に対する反応である。ギャング文化では沽券と評判が非常に重要な役割を演じており、構成員とギャング全体は、その両方を確立し、守るために手段を選ばない。ギャングの要求に屈することを拒んだり、ギャングに挑んだり、妨害したりする一切の行動は、敬意を欠く受け止められ、そのため、しばしば凶悪で懲罰的な仕返しの呼び水となる。重大なことは、いったんある人物や家族が報復の標的とされれば、時間が経っても、脅威の重大さは減じられないことである。

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

7. ギャングの中には、「マラ」(Maras)<sup>8</sup>のように、メンバーの拡大、維持を、加入強要に大きく依存しているものもある。彼らは通常、貧しく、住居を持たず、社会から疎外された層や特定の地域出身の若者たちを加入させる。入会儀式は、暴力的で憎悪すべき行為が特徴である。新人は、殺人を含む重大犯罪を犯すだけでなく、身体的暴力、性暴力に耐えることを要求される<sup>9</sup>。いったんギャングの一味になれば、通常は、死ぬまでその地位にとどまるとみなされる。したがって、脱退すれば、深刻な結果をもたらす。すなわち、ギャングは脱退者を厳しく罰する傾向があり、恫喝から、生命を脅かすような内容の脅迫、さらには身体的復讐にまで至り、場合によっては家族にも及ぶことがある<sup>10</sup>。

---

<sup>8</sup>The Mara Salvatrucha or MS-13 gang and the Mara 18 or M-18 gang, hereinafter collectively referred to as “the Maras”, are the most notorious of the Central American gangs.

<sup>9</sup>Report of the International Human Rights Clinic, *No place to hide: Gang, State and Clandestine Violence in El Salvador*, Human Rights Programme, Harvard Law School, Feb. 2007 (hereinafter “IHRC, *No place to hide*”), <http://www.law.harvard.edu/programmes/hrp/documents/NoPlacetoHide.pdf>, pp. 31–32.

<sup>10</sup>Desertion is perceived to undermine the internal discipline of the gang as well as to impact the gang’s ability to dominate its territory and carry out its activities, *ibid*, pp. 33–34.



原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

8.すでに述べたように、ギャングの鍵となる機能は犯罪行為である。脅して金品を強奪する行為、強盗、殺人、売春、誘拐、密輸、人身売買、薬物や武器の売買が、資金を集め、それぞれのテリトリーの支配を維持するためにギャングが行う一般的な行為である。一部のギャング（例えば「マラ」）は、経済的利益を拡大するため、犯罪行為に一層力を入れており、凶悪さを増している<sup>11</sup>。

---

<sup>11</sup>See, for instance, Writenet, *Central America (Guatemala, El Salvador, Honduras, Nicaragua): Patterns of Human Rights Violations*, Aug. 2008 (hereinafter “Writenet, *Report on Central America*”), <http://www.unhcr.org/refworld/docid/48ad1eb72.html>; IHRC, *No place to hide*, above fn. 9; USAID, *Central America and Mexico Gang Assessment*, Bureau for Latin American and Caribbean Affairs Office of Regional Sustainable Development, Apr. 2006, [http://www.usaid.gov/locations/latin\\_america\\_caribbean/democracy/gangs\\_assessment.pdf](http://www.usaid.gov/locations/latin_america_caribbean/democracy/gangs_assessment.pdf).

原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

9.国によっては、ギャングのメンバーが団結して、犯罪取締機関と抗争する場合もある<sup>12</sup>。中米の国には、ギャング現象への対応策として「マノ・デュラ(“strong hand”)) と呼ばれる強硬手段を採用している国もある<sup>13</sup>。これまでとられた対応には、とりわけ、「社会浄化」と呼ばれる司法手続きによらない殺害、警官による暴力、恣意的あるいは違法な逮捕・勾留<sup>14</sup>、非人道的な刑務所生活も含まれている<sup>15</sup>。このような措置はギャング構成員あるいは、構成員であると疑われた者に対して向けられると考えられるまた、それらの措置は、しばしば、国家に支持され、または容認されている。司法的手続きによらない処刑、即決処刑または恣意的処刑に関する国連特別報告者は次のように指摘している。

証拠は、社会浄化が、一握りの乱暴な警官の行為にはとどまらないことを示している。これは、社会浄化が公式に認可された政策のレベルにまで達していることまで意味するものではないが、社会浄化が、頻繁かつ定期的に行われている実態は、それが制度的責任の問題を呈していることを示している<sup>16</sup>。

---

<sup>12</sup>WOLA, *A Resource Guide*, above fn. 2, p. 5.

<sup>13</sup>In the views of some observers, these “zero tolerance” responses have been ineffective in addressing gang-related crime and raise additional human rights concerns. See Writenet, *Report on Central America*, above fn. 11, pp. 25–26, 37; IHRC, *No place to hide*, above fn. 9 pp. 44–45.

<sup>14</sup>The Committee on the Rights of the Child expressed concerns in its Concluding observations on Honduras, CRC/C/HND/CO/3, 3 May 2007, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/478c93e72.html>, that “many children are arrested and detained on the mere allegation that they may belong to a mara because of their appearance, e.g. due to the way of dressing or to the presence of a tattoo or a symbol”, and recommended that the State party “ensure that persons below 18 are not deprived of their liberty unlawfully or arbitrarily, in particular as a consequence of the application of anti-maras measures”.

<sup>15</sup>See, for instance, Writenet, *Report on Central America*, above fn. 11.

<sup>16</sup>Human Rights Council, *Addendum to the Report of the Special Rapporteur on Extrajudicial, Summary or Arbitrary Executions, Mission to Guatemala (21-25 August 2006)*, 19 Feb. 2007, A/HRC/4/20/Add.2, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/461f844d2.html>, para. 21.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

### III. ギャング集団の犠牲者の類型

10. ギャング関連の暴力は広範囲にわたり、社会のかなりの部分、特に法の支配が弱い部分に影響を及ぼしうる。一般市民であっても、ギャングが支配する地域の住民であるというだけで、ギャングの暴力行為に曝されるおそれがある。個人、地元企業、バス、タクシーなどが「レンタ（みかじめ料）」を要求する場合があります、これらの要求に応ずることを拒否すると暴力の脅威を受けることになりうる<sup>17</sup>。

11. しかし、特に標的とされる社会的グループも存在する。社会から疎外され、そのため、ギャングからの強制的勧誘、暴力その他の形態の圧力に巻き込まれやすい人もこうした社会グループに含まれる。ギャング関連暴力はほとんどが男性や年少者に対するものであるが、女性や少女もそのような暴力を受ける可能性がある点に注意することが重要である。国家による保護の欠如、機会や扶養の欠如、貧困、社会的帰属の必要性のために、子供や青年がギャング加入を余儀なくされることもありうる。青年ギャングに関連した暴力の主な犠牲者は他の若者たちであり、ギャングにかかわりのある

---

<sup>17</sup> “Renta” is money collected by gang members from local businesses, public transportation drivers, households, etc., as part of an organized extortion system. See IHRC, *No place to hide*, above fn. 9, p. 81.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

者もそうでない者も標的となる<sup>18</sup>。ギャング関連の難民申請理由はいくつかのカテゴリーに分けられる。以下に簡単にそれぞれのカテゴリーについて説明する。

#### a) ギャング活動に対する抵抗

12. どんな形であれギャングの活動に抵抗した者、ギャングの風習に反し、または反すると判断された者は、ギャングから危害を受ける可能性がある。この集団に分類される個人は、それぞれの固有の国や社会の背景事情をふまえて文脈に沿って理解される必要がある。犯罪的活動が広範囲に行われており、犯罪取り締まり機関が人々をギャングの暴力から保護できない地域では、ギャングに反対を表明している人は、地域社会の中で目立つ存在になることが多い。そのような「対ギャング抵抗者」は、大きくわけて次のカテゴリーに分類される。

- a. 特定の社会的地位にある若い男性、または青年で、仲間に引き込まれるリスクのある、あるいは引き込まれるのを拒否する者
- b. 売春や人身取引目的<sup>19</sup>を含む、ギャングからの性的な要求やギャングの性的所

---

<sup>18</sup> See Commission on Human Rights, Extrajudicial, summary or arbitrary executions: *Report submitted pursuant to Commission on Human Rights resolution 2002/36: Addendum - Mission to Honduras*, 14 June 2002, E/CN.4/2003/3/Add.2, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3dec85782.html>, which noted that the “killing of children by unknown perpetrators is routinely attributed to inter-gang wars between the maras. It is alarming that a section of the Honduran press often demonizes street children and blames the high level of violence in the country on child gangs ... [i]n the end, every child with a tattoo and street child is stigmatized as a criminal”, para. 29; WOLA, *Transnational Study on Youth Gangs*, Mar. 2007, [http://www.wola.org/media/Gangs/executive\\_summary\\_gangs\\_study.pdf](http://www.wola.org/media/Gangs/executive_summary_gangs_study.pdf), p. 9.

<sup>19</sup> For persons who have been trafficked by gangs, please refer to UNHCR, *Guidelines on International Protection No. 7: “The Application of Article 1A(2) of the 1951 Convention and/or 1967 Protocol Relating to the Status of Refugees to Victims of Trafficking and Persons At Risk of Being Trafficked,”* 7 Apr. 2006,

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

有物となることを拒否する若い女性、青春期の少女など

c. ギャングによって恐喝、その他金品や役務の提供を求める違法な要求に応ずることができない、あるいは応じようとししない事業主とそれに類する人々<sup>20</sup>

d. ギャングが犯した犯罪の目撃者または、そのような事件を当局に通報したため、通報の阻止、または通報に対する報復として暴力を受けやすくなる者<sup>21</sup>

e. 犯罪取締機関の職員は、ギャングと戦うことに精勤したため標的とされる可能性がある

f. ギャングに反対し、そのためギャングによる脅迫や暴力の標的となるNGO職員、人権活動家、弁護士、地域や教会に拠点を置くグループの参加者<sup>22</sup>

g. 少数民族や性的少数派、その他、ギャングへの脅威またはギャングの行動に迎合しようとししない者、あるいはそのように受け止められる者

## b) 現役、またはかつてのギャングメンバー

13. ギャングの元メンバーあるいは現役のメンバーは、特に、加入強要、ギャングの暴力的な儀式、ギャングが構成員に課す規律の結果として、ギャング関連暴力の犠牲者とみなされる場合がある。かつてギャングのメンバーだったことによる犠牲者に該当するのは、一般的に、ギャングから足を洗ったメンバーや、強制的に加入させられたがなんとか逃げる事ができた者などである<sup>23</sup>。このような申請者は、申請者自身が所属ギャングまたは対抗するギャングからの報復と暴力を恐れるかもしれない。また、このような申請者は、必ずしも犯罪取締機関の保護を期待できない。ギャングと関係をたとうとしても、たとえば残りのギャングの入れ墨があるなどの理由から、結局メンバーと受け止められる可能性がある。

---

<http://www.unhcr.org/refworld/docid/443679fa4.html>.

<sup>20</sup>See, for instance, *Jose Francisco Marquez-Perez, Petitioner v. Mukasey*, No. 06-61153, U.S. Court of Appeals for the 5<sup>th</sup> Circuit, 29 Feb. 2008 (non-precedent decision),

<http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b6aca8d2.html>, where the proposed group involved “business owners in El Salvador who [were] targeted by gang members for money;” *X (Re), Immigration and Refugee Board of Canada (Refugee Division)*, No. T99-04988, 17 Nov. 1999,

<http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b6be1ad2.html>, which concerned a Polish businessman who had fled threats and extortion demands of former police officers.

<sup>21</sup>*Yoli v. Canada (Minister of Citizenship and Immigration)*, F.C.J. No. 182 2002 FCT 1329, Canada, Federal Court, 30 Dec. 2002, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4039fa464.html>.

<sup>22</sup>*Emilia Del Socorro Gutierrez Gomez v. Secretary of State for the Home Department*, 00/TH/02257, U.K. Asylum and Immigration Tribunal, 24 Nov. 2000, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/40487df64.html>.

<sup>23</sup>*Santos-Lemus v. Mukasey*, No. 07-70604, U.S. Court of Appeals for the 9<sup>th</sup> Circuit, 9 Aug. 2008, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b6c22a82.html>.

原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

14. 現役のギャングメンバーは、別のギャングまたは私人からの危害を恐れる場合がある。しかし、それ以上に、犯罪取締機関による危害を恐れている場合が多い。このカテゴリーには、出身国外でギャングに加わったが、帰国した場合危害を受けるのではないかと恐れている者も含まれる。

#### c) 国家の反ギャング方針と活動の犠牲者および批判者

15. ギャング関連の難民申請は、ギャング現象と戦うために国家が行う違法または恣意的な措置（たとえば上記の社会浄化）の犠牲となるという主張を含む場合もある。そのような措置が向けられるのは現役のギャングメンバーと考えられるが、それ以外にも、元ギャングメンバーや若者のような、年齢や外見、社会的背景がギャングメンバーに似ているため、間違っ てギャングに属すると判断される個人も含まれる。「マノ・デュラ」アプローチやその他のアプローチも時として、ギャングとのつながりは ないが、社会の中で「好ましくない」と見なされるグループ<sup>24</sup>、例えば麻薬常用者、 ストリート・チルドレン<sup>25</sup>、性的少数者<sup>26</sup>、セックスワーカーを標的としてきた。

16. 司法手続きによらない殺害を含めた違法または恣意的な措置が、ギャングに対す る政府のアプローチを批判していると受け止められた市民社会の構成員に対しても 取られたことがある。これに該当するのは、たとえば、人権活動家、「内部告発者」 として、ギャングに関連した役人の不正や違法な対応を報告した犯罪取締機関の元職 員などである<sup>27</sup>。

#### d) 家族

17. 上記のカテゴリーの家族も通常、ギャングの標的となりうる。一般に家族は、報 復行為として、あるいは、加入強要や恐喝に屈服させるために他の家族に圧力をかけ る手段として脅威と暴力を受けるおそれがある。申請者本人がギャングに反対する行 動を取ったことがない、あるいは家族と同じ見解を共有していない場合でも、ギャン グまたは場合によっては国家主体がそのような抵抗または見解を申請者のものであ

<sup>24</sup>Writenet, *Report on Central America*, above fn. 11.

<sup>25</sup>The Committee on the Rights of the Child in its Concluding Observations on Colombia, CRC/C/COL/CO/3, 8 June 2008, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/45377ee30.html>, was particularly disturbed by threats posed by social cleansing and noted that the right to life of children who live and/or work on the streets may be particularly threatened and also expressed concerns over the vulnerability of street children to youth gangs, paras. 84-85.

<sup>26</sup>In *RRT Case N98/22948*, RRTA 1055, Australia, Refugee Review Tribunal, 20 Nov. 2000, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7a97fd2.html>, the Tribunal accepted that “urban death squads and vigilante groups target sections of society who they consider to be disposable” and upheld the claim for refugee status of a HIV positive gay Colombian man. The Tribunal found that the identification of poor gay men as “disposables” would put them at risk of “social clean up” operations which “target the urban poor, some gay men, transvestites, male and female prostitutes, street children, vagrants and petty criminals”.

<sup>27</sup>Writenet, *Report on Central America*, above fn. 11, p. 10.

原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

ると考える可能性がある。たとえば、女性（または少女）は、ギャングから、彼女の父親や夫、息子または兄弟と同じ反ギャング的見解を持っていると受け止められ、そのために、危害にさらされるおそれがある。

#### IV.法的分析

18.ギャング関連の活動に起因する難民性の主張の増加、とりわけ中米におけるこうした申請の増加により、難民条約に規定されている難民の定義の解釈を明確化することが必要となっている。ギャング関連の暴力から逃れてきている人が国際的保護を受ける適格性を有するかどうかは、申請者が直面するリスク、被ったあるいは怖れている暴力/人権侵害の強度と性格、難民条約の難民の定義で列挙されている理由のいずれかとの因果関係、ギャング活動への関与、当該国で提供される国家による保護のレベルといった要素に依存する。また、多く申請で除外規定が適用されるかどうかの検討も慎重に行う必要があるのはもちろんである。

19.年齢や性別を適切に考慮することは、庇護申請の主体が子供、若者そして女性である場合には、特に重要である。主張の評価にあたって、こうした要素の重要性が見落とされたり、過小評価されたりすることがないようにすることが重要である。<sup>28</sup>

##### a)十分理由のある迫害に対する恐怖

20.迫害の恐怖に十分な理由があるかどうかを評価する際、経歴、経験、活動と家族

---

<sup>28</sup>See, *Doe v. Holder, Attorney General: Brief of the United Nations High Commissioner for Refugees as Amicus Curiae in Support of Petitioner*, 13 Nov. 2009, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b03eb182.html>, pp. 17–19.

原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

の状況といった申請者の個人プロフィールに関係する多くの要素を考慮することは重要である。ギャング関連の難民申請は、申請者以外にも、同じ家族の中に脅かされたり、危害を加えられたり、殺されたり、移転を強いられたりしている者がいることが判明するケースが多くある<sup>29</sup>。同じような状況で他の人、特に他の家族に加えられた危害は、申請者の恐怖に十分理由があることを裏付けうる。

21. 一般に、ギャングに関連して被る危害は、さまざまな形の身体的、性的暴力（例えば殺人、襲撃、強姦、強盗、窃盗、放火、それらに関連した脅迫など）がある<sup>30</sup>。殴打、強姦その他重大な暴力行為は、通常、迫害に相当するだろう。また、人身売買や誘拐などの重大な人権侵害も迫害といえるだろう<sup>31</sup>。暴力または死の脅威は、申請者が未だ現に暴力を受けていない場合であっても、申請者の個々の状況と背景に照らして信憑性があると考えられる場合、迫害に該当しうる。

22. ギャング加入の強要は、脅迫と暴力が徐々にエスカレートしていく形を取ることが多い。暴力、脅迫その他の強制手段を用いることによって誰かにギャングへの加入を強制したり、脱退を妨げたりすることは、結社の自由、自由と安全の権利など多くの人権に相反する<sup>32</sup>。凶悪なグループによる殺すぞという脅しを含めた加入強要は通常、迫害に相当するといえよう<sup>33</sup>。特に、ギャングに無理やり加入させられた、あるいはギャングに誘拐され、ギャングの管理下にある子どもたちに関しては、国際人権

<sup>29</sup>See, for instance, *Matter of E-A-G-*, 24 I&N Dec. 591, U.S. Board of Immigration Appeals, 30 July 2008, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4ae9acc0.html>.

<sup>30</sup>See *Francis Gatimi, et al v. Eric H. Holder, Jr. Attorney General of the U.S.*, No. 08-3197, U.S. Court of Appeals for the 7<sup>th</sup> Circuit, 20 Aug. 2009, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4aba40332.html>. The Court examined whether violence by gangs can amount to persecution and found that “the immigration judge ruled that the acts committed by the Mungiki against Gatimi were not persecution but merely ‘mistreatment.’ That is absurd.” See also - *Sandra -*, U.S. Department of Justice, Executive Office for Immigration Review (hereafter “EOIR”), Baltimore, MD, 16 Dec. 2008, where the Court held that “being relentlessly stalked, threatened, and physically and sexually assaulted by members of a violent gang whom the Guatemalan government has heretofore been unable to control would qualify as ‘infliction of suffering’ and thus be considered past persecution,” p. 17.

<sup>31</sup>Such acts may violate the right to life and the right to liberty and security enshrined in the International Covenant on Civil and Political Rights, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b3aa0.html> (hereinafter “ICCPR”), respectively Arts. 6 and 9. In the case of children, such acts may also violate a range of rights set out in the Convention on the Rights of the Child, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b38f0.html> (hereinafter “CRC”), including the right to life and maximum survival and development (Art. 6), the right to protection from all forms of violence (Art. 19), and the right not to be subject to abduction, sale and trafficking (Art. 35).

<sup>32</sup><sup>32</sup>See, for instance, the CRC, Arts. 6, 19, 20, 32. See also, the Committee on the Rights of the Child, *General Comment No. 4: Adolescent Health and Development in the Context of the Convention on the Rights of the Child*, 1 July 2003, CRC/GC/2003/4, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4538834f0.html>, which noted that “Violence results from a complex interplay of individual, family, community and societal factors. Vulnerable adolescents such as those who are homeless or who are living in institutions, who belong to gangs or who have been recruited as child soldiers are especially exposed to both institutional and interpersonal violence”, para.

<sup>33</sup>As an illustration as to how forced recruitment may constitute persecution see, for instance, *Dinora Del Carmen Molina v. INS*, 170 F.3d, 1247, U.S. Court of Appeals for the 9<sup>th</sup> Circuit, 26 Mar. 1999, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4152e0fbc.html>, which concerned a guerrilla group in El Salvador.



原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

法によりあらゆる形態の奴隷制および奴隷制に類似した行為が禁じられていることを想起することが重要である<sup>34</sup>。人身売買や人身取引<sup>35</sup>のような慣行、強制労働<sup>36</sup>は通常、迫害と見なされるだろう。

23. 警官や刑務所の看守といった国家主体によって加えられる危害としては、司法手続きによらない殺害、拷問、恣意的逮捕・勾留などが含まれる<sup>37</sup>。国家は、社会の保護のために刑法を制定、施行することによって、暴力を抑制する権利と義務を有しているが、その義務は、国家が身柄を拘束し、その管理下においている個人に対して故意に過酷な苦痛や苦しみを課すように職務を遂行する方向には拡大されない。<sup>38</sup>

## b) 迫害の主体

24. ほとんどのギャング関連の難民の主張において、迫害は、ギャングまたはそれに類する非国家集団に由来している。UNHCR 難民地位認定手続き・基準ハンドブックが規定しているように、迫害は「関係国の法律によって定められた規格を尊重しない集団が行う行為である場合もある」。UNHCR ハンドブックはさらに「重大な差別的行為その他の攻撃的行為が地元の民衆によって行われる場合、彼らが当局によっ

<sup>34</sup>The Convention to Suppress the Slave Trade and Slavery, 25 Sep. 1926, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b36fb.html>, provided the first basic definition of slavery: “Slavery is the status or condition of a person over whom any or all of the powers attaching to the right of ownership are exercised”, Art 1(1). See also, International Labour Organization, Worst Forms of Child Labour Convention, 17 June 1999, C182, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ddb6e0c4.html>, Art. 3.

<sup>35</sup> See also, Protocol to Prevent, Suppress and Punish Trafficking in Persons, Especially Women and Children, Supplementing the United Nations Convention against Transnational Organized Crime, 15 Nov. 2000, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4720706c0.html>, Art. 3.

<sup>36</sup> International Labour Organization, Forced Labour Convention, C29, 28 June 1930, C29, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ddb621f2a.html>, defines forced or compulsory labor as “all work or service which is exacted from any person under the menace of any penalty and for which the said person has not offered himself voluntarily”.

<sup>37</sup> The Committee on the Rights of the Child has, in the context of administration of juvenile justice, expressed particular concern at the repressive measures taken in response to youth gangs. See, for example, its Concluding Observations on El Salvador, CRC/C/15/Add.232, 30 June 2004, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/42d3c19c4.html>, paras. 67–68. Some State agents have been implicated in ordering, facilitating or acquiescing to extrajudicial killings of gang members, including while in prison; see, for instance, the Report of the Special Rapporteur on Extrajudicial, Summary or Arbitrary Executions on his Mission to Guatemala, above fn. 16, and the follow-up report, A/HRC/11/2/Add.7, 4 May 2009, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4a0932270.html>.

<sup>38</sup> See *Matter of M-R-*, EOIR Immigration Court, York PA, (unpublished), 24 May 2005, and reasoning in relation to deferral of removal under the Convention Against Torture. The applicant was a former gang member who feared that he would be imprisoned under Honduran anti-gang legislation due to his past membership in MS-13 and that he would be subjected to severe pain and suffering while imprisoned. The decision was over-turned, however, on appeal.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

て故意に許容され、あるいは、当局が、実効的な保護を提供することを拒絶する、あるいは提供できないことが確認されれば、迫害と評価することができる」と規定している。<sup>39</sup>

25. 被るのではないかと怖れている危害が難民条約の意味における迫害とみなすことができるかどうか判断した後、国家がギャング関連暴力の犠牲者に保護を提供する意図または能力を有するかどうかを確認することが必要となる。当局は、たとえば、ギャング活動に対し当局自体が財源として関心を寄せている場合、あるいはギャングから標的とされているあるいはギャングに関係している人物を当局が保護に値しないと見なした場合などに、当該個人の保護に消極的になる場合がある。特に特定のギャング（例えば「マラ」）が犯罪取締を逃れられる大きな権力と能力を行使する場合や汚職が蔓延している場合、国家は実効的な保護を提供する能力を欠いていると判断される。

26. 状況によっては、国家が、ギャングに関連した難民の主張において迫害主体とみなされる場合も考えられる。これが該当するのは、ある国家主体が、公式の義務の範囲を超えた行動を行う一環として、あるいはギャング関連の暴力撃退のための違法な対策の一環としてギャングメンバーと協力している、あるいはギャングに暴力その他の犯罪行為に関与するように命じている場合などである<sup>40</sup>。表向きには政府の機構から切り離されていても、あるグループまたは個人が、政府の扇動を受けて、あるいは政府の同意を得て行動している場合は、国の責任がかかわってくる。

27. 国家の保護が得られるかどうかの評価は、ギャング現象に対する既存のプログラムおよびその実効性に関する情報を含む、出身国の詳細かつ信用できる情報が必要となろう。難民地位について判断を下す際の他のすべての要素と同様、各々のケースの個々の状況を分析することが重要である。国家は、常にすべての国民に最高レベルの保護を保障することまでは期待されないが、その保護は現に提供され、かつ効果的(real and effective)なものであることが要求される。<sup>41</sup>

<sup>39,39</sup> UNHCR, *Handbook on Procedures and Criteria for Determining Refugee Status under the 1951 Convention and the 1967 Protocol relating to the Status of Refugees*, 1 Jan. 1992, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b3314.html> (hereinafter the “UNHCR, *Handbook*”), para. 65. See also the EU Council Directive 2004/83/EC of 29 April 2004 on Minimum Standards for the Qualification and Status of Third Country Nationals or Stateless Persons as Refugees or as Persons Who Otherwise Need International Protection and the Content of the Protection Granted, 19 May 2004, 2004/83/EC, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4157e75e4.html>, which explicitly refers to non-State actors as agents of persecution (Art. 6 (c)).

<sup>40</sup> See, for instance, Writenet, *Report on Central America*, above fn. 11

<sup>41,41</sup> The existence of Mano Dura and other similar programmes launched to address gang-related crime need not necessarily be taken as evidence that effective State protection is available. Some observers have commented on the inability of these programmes to effectively deal with the gangs and related crime; see, for instance, the Writenet, *Report on Central America*, above fn. 11.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

28. 国家の保護が存在することを示すと考えられ、しかも審判者が難民の主張を分析する際の参考になると期待できる要因としては次のようなものがある。すなわち、刑事司法制度を改革し、拡大する努力が見られること、社会浄化の慣行を終らせるため試みが行われていること、目撃者を保護するプログラムが整備されていること、などである。逆に、以下の要素は、実効性のある国家による保護の欠如を示している。すなわち、ギャングによって危害を加えられるリスクにさらされている人の身の安全を確保するための措置が欠如している、警察や政府に援助を求めても無駄だ、あるいはギャングから危害を加えられるリスクを高めるのではないかと公衆に受け止められ、公衆の側が警察や政府に援助を求めるのに総じて消極的である、政府の役人、警察と治安部隊の間に汚職が蔓延している、あるいは犯罪を犯しても訴追されない状態が日常化している、政府の役人、警察と治安部隊が関与した裁判によらない殺害、麻薬、人身売買などの重大犯罪が蔓延している、といった要素（など）である。<sup>42</sup>

### c) 条約上の理由との関係

29. 難民定義の基準を満たすには、個人の十分理由のある迫害の恐怖が、条約上の5つの理由の一つ以上に該当しなければならない。UNHCRの「難民認定基準ハンドブック—難民の地位の認定の基準及び手続に関する手引き—」が指摘しているように、「事案の事実調査において、恐怖の対象である迫害の理由（1つないし複数）を確かめるのは審査官の仕事である。<sup>43</sup>条約上の理由が迫害されるリスクの寄与要因であることを示すことは必要であるが、それが唯一の原因である必要はなく、また支配的な原因である必要さえない。<sup>44</sup>迫害のリスクが非国家主体に由来する場合は、以下の場合に、原因と結果につながりが存在すると認容しうる。

(1) 難民申請者を国家が保護できないことが、難民条約に関係した理由からかどうか

<sup>42</sup> See discussion on State protection in RPD File No. TA7-04670, TA7-04671, TA7-04672, (*Private Proceedings*), Immigration and Refugee Board of Canada, CanLII 49548, Canada, Immigration and Refugee Board, 31 Jan. 2008, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b6bea7e2.html>, p. 3.

<sup>43,43</sup> UNHCR, *Handbook*, above fn. 39, para. 67.

<sup>44,44</sup> UNHCR, *Position on Claims for Refugee Status under the 1951 Convention relating to the Status of Refugees Based on a Fear of Persecution Due to an Individual's Membership of a Family or Clan Engaged in a Blood Feud*, 17 Mar. 2006, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/44201a574.html>, para. 13.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

にかかわらず、難民条約上の理由のいずれかにより非国家主体によって迫害される現実的な危険性（real risk）が存在する場合、あるいは、(2)非国家主体によって迫害されるリスクは、難民条約上の理由に関係していないが、条約上の理由により、国家に保護を提供する能力または意思がない場合。<sup>45</sup>

30. (多くの) ギャングに関連したケース、特に、加入強要その他のギャングからの不当な要求に抵抗する若者が関係するケースで、その人物が標的にされるのは、貧困地域に暮らしている、あるいは家族その他の社会的サポート・ネットワークがないためであることが多い。これを前提とすると、個人は、社会からの疎外、社会的地位やその脆弱さ故に標的とされる危険性が高くなるということになる。。

#### d)条約上の理由

31.判例の最近の動向は、ギャング関連の難民申請は、難民条約上の理由のうち、「特定の社会的集団の一員であること」や「政治的意見」に分類されることが最も多いことを示唆している。このこと自体は、(その他の) 難民条約上のその他の理由が当てはまる可能性を除外するものではない。また、難民条約上の理由が互いに排除し合うものではなく、重複することがあることに留意することも重要である。<sup>46</sup>

---

<sup>45</sup><sub>45</sub> UNHCR, *Guidelines on International Protection No. 2: “Membership of a Particular Social Group” Within the Context of Article 1A(2) of the 1951 Convention and/or its 1967 Protocol Relating to the Status of Refugees*, 7 May 2002, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3d36f23f4.html>, (hereinafter “UNHCR, *Guidelines on Membership of a Particular Social Group*”), para. 23.

<sup>46</sup><sub>46</sub> UNHCR, *Handbook*, above fn. 39, para. 67. See also, *Orozco-Polanzo (Re)*, No. A75-244-012, U.S. EOIR, Immigration Court, El Paso, Texas, 18 Dec. 1997, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b6beec42.html>. The applicant was a young male from Guatemala who had refused recruitment attempts by two gangs as he did not believe in the values of the gangs. The Court found that “the grounds of political opinion and membership in a particular group are interchangeable”.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

### (i) 宗教

32. 難民条約の宗教の理由は、申請者の宗教的信条が、ギャングのライフスタイルと相容れないという主張を分析する場合に該当性が出てくる場合がある<sup>47</sup>。たとえば、申請者が宗教的信念または良心のため、ギャングに加わることを拒否する、あるいは、回心や改宗を経験したギャングメンバーがギャングから脱退したい場合がこれにあたりと考えられる。異なる宗教や特定の地域に存在する信仰を信じる人々に対する暴力と不寛容がギャングにより促進される場合には、個人の宗教、信条が迫害の理由となりうる。そのような文脈では、申請者の宗教的信念がギャングメンバーの注意を引くようになった、あるいは引き付ける可能性があるかどうかについて検討することが重要である<sup>48</sup>。

### (ii) 人種および国籍

33. ギャングによっては、活動の動機が人種差別主義的、または民族主義的イデオロギーにあり、人種差別が一般的となった環境で活動している場合がある。たとえば、ギャングは、外国人に対する嫌悪を扇動したり、外国人、少数民族、国民内の少数派に対する憎悪にもとづく犯罪（ヘイトクライム）を行う場合がある。こうした文脈では、先住民族を含めたこうした少数派に属する個人は、自身の人種または国籍によりギャングの標的とされうる。国家による保護が存在しない場合において、申請者が、自身の人種、民族、または国籍によりギャングから迫害される場合、人種または国籍という

<sup>47,47</sup>In *Romero-Rodriguez v. U.S. Attorney General*, 131 Fed.Appx.203, 2005 WL 1106550, U.S. Court of Appeals for the 11th Circuit, 10 May 2005, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7aa25b2.html>, the applicants claimed a fear of persecution for their refusal to join a criminal organization due to their religious and conscientious upbringing.

<sup>48,48</sup>See further UNHCR, *Guidelines on International Protection No. 6: Religion-Based Refugee Claims under Article 1A(2) of the 1951 Convention and/or the 1967 Protocol relating to the Status of Refugees*, 28 Apr. 2004, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4090f9794.html>, paras. 4, 14.

原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

難民条約上の理由が該当しうる。<sup>49</sup>

(iii) 「特定の社会的集団の構成員」

34. UNHCRは、特定の社会的集団を以下のように定義している。

迫害されるリスクがあるという点以外にある共通の特徴を共有している、あるいは、社会から1つグループとして受け止められている集団。この特性は、生来の、不変のものであることが多く、そうでない場合も、アイデンティティ、良心またはその人の人権の行使の基本となるものである。<sup>50</sup>

この定義は、国家の実務に見られる二通りのアプローチ2つの代替アプローチ、すなわち、「保護された特徴」アプローチと「社会的受け止め方」アプローチを、1つの定義に結合している。UNHCRは、これらはいずれも正当なアプローチであると考えている。この集団は、2つのアプローチのいずれか1つを通じて識別可能であれば足り、両方のアプローチは必要ない。<sup>51</sup>

<sup>49</sup> UNHCR, *Handbook*, above fn. 39, paras. 68–70, 74–76. See also decision V-95-00138, Canada, Convention Refugee Determination Division, 16 Jan. 1997, which noted that racial discrimination was common in Colombia and that young, poor, black men were common targets of gangs, operating with the tacit approval of the government. It was determined that the applicant had suffered from discrimination amounting to persecution on account of his race and socio-economic group. However, he was found to have an internal flight alternative; X (*re*), File No. TA7-13448, TA7-13528; TA7-13529, TA7-13530, Canada, Immigration and Refugee Board, 28 July 2008 (amended 16 Sep. 2008), <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7bad512.html>, which concerned a Roma family fearing harm from skinhead gangs; *Refugee Appeal Nos. 76259, 76260 & 76261*, New Zealand, Refugee Status Appeals Authority, 16 Dec. 2008, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4a1a8c002.html>.

<sup>50</sup> UNHCR, *Guidelines on Membership of a Particular Social Group*, above fn. 45, paras. 11–13.

<sup>51</sup> *Ibid.*, para. 14. “Social visibility” and “particularity” have been introduced in U.S. jurisprudence as additional requirements for recognition of a particular social group in a number of decisions, including in relation to gangs. Recently, however, in *Francis Gatimi, et al., v. Eric H. Holder*, above fn. 30, the “social visibility” requirement was questioned. For further information about UNHCR’s position on the issue, see *Valdiviezo-Galdamez v. Holder, Attorney General. Brief of the United Nations High Commissioner for Refugees as Amicus Curiae in Support of the Petitioner*, 14 Apr. 2009, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/49ef25102.html>; *Doe v. Holder*, UNHCR, Amicus Curiae, above fn. 28.

<sup>52</sup> *A v Minister for Immigration & Ethnic Affairs*, Australia, High Court, 24 Feb. 1997, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b7180.html>. The Court found that “while persecutory conduct cannot define the social group, the actions of the persecutors may serve to identify or even cause the creation of a particular social group in society.”

<sup>53</sup> UNHCR, *Guidelines on Membership of a Particular Social Group*, above fn. 45, para. 18.

<sup>54</sup> See, for instance, *VM (FGM - Risks - Mungiki - Kikuyu/Gikuyu) Kenya v. Secretary of State for the Home Department*, UKAIT 00049, U.K. Asylum and Immigration Tribunal, 9 June 2008, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/484d4a222.html>, which involved a female asylum-seeker fearing persecution in the form of enforced female genital mutilation from her partner, a member of the Mungiki organization; the recognized group was “women (girls) in Kenya”.

原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

35. 社会的集団は、「集団の構成員が受ける迫害のみによって、または、迫害されるという共通の恐怖だけでは定義できない」が、ある集団の構成員が迫害されてきた、あるいは現在迫害されているという事実は、迫害と特定の社会的集団の潜在的関係を示すものとして参考になるといえる。<sup>52</sup>しかし、特定の社会的集団として認められるには、一般集団よりも高い犯罪率や人権侵害の発生率の犠牲者である必要はない。他のタイプの主張と同様、グループの規模も関係ない。<sup>53</sup>

#### 生来の変更しがたい特性

36. ギャングへの加入強要に抵抗する、あるいはギャングの慣行に反対する人は、年齢や性別、社会的地位などの生来のあるいは不変の特性を共有している場合がある。<sup>54</sup>特定の社会的地位の若者は、一般に、ギャングによる加入強要その他の暴力的なアプローチを受けやすいが、まさにそれは、彼らを社会から引き離している特性、すなわち、若年者であること、感化されやすさ、他者への依存性、貧困、親による導きの欠如に起因している。実際に、最近の研究により、中米のギャングの新メンバー確保慣行がしばしば若い人々を標的にしていることが明らかになっている。<sup>55</sup>年齢および社会的地位に基づき特定の社会的集団を認識することは、ギャングに加入することを拒否した申請者との関係では重要な意味を持ちうる。「年齢」または「青年」といった変更できない特性は事実上存在しており、どの時点であれ変更不可能である。<sup>56</sup>

<sup>52</sup> *A v Minister for Immigration & Ethnic Affairs*, Australia, High Court, 24 Feb. 1997, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b7180.html>. The Court found that “while persecutory conduct cannot define the social group, the actions of the persecutors may serve to identify or even cause the creation of a particular social group in society.”

<sup>53</sup> UNHCR, *Guidelines on Membership of a Particular Social Group*, above fn. 45, para. 18.

<sup>54</sup> See, for instance, *VM (FGM - Risks - Mungiki - Kikuyu/Gikuyu) Kenya v. Secretary of State for the Home Department*, UKAIT 00049, U.K. Asylum and Immigration Tribunal, 9 June 2008, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/484d4a222.html>, which involved a female asylum-seeker fearing persecution in the form of enforced female genital mutilation from her partner, a member of the Mungiki organization; the recognized group was “women (girls) in Kenya”.

<sup>53</sup><sub>53</sub> UNHCR, *Guidelines on Membership of a Particular Social Group*, above fn. 45, para. 18.

<sup>54</sup><sub>54</sub> See, for instance, *VM (FGM - Risks - Mungiki - Kikuyu/Gikuyu) Kenya v. Secretary of State for the Home Department*, UKAIT 00049, U.K. Asylum and Immigration Tribunal, 9 June 2008, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/484d4a222.html>, which involved a female asylum-seeker fearing persecution in the form of enforced female genital mutilation from her partner, a member of the Mungiki organization; the recognized group was “women (girls) in Kenya”.

<sup>55</sup><sub>55</sub> Youth within the age range of 8–18 years may be particularly vulnerable to recruitment. See, for instance, the USAID, *Central America and Mexico Gang Assessment Report*, above fn. 11, p. 15.

<sup>56</sup><sub>56</sub> UNHCR, *Guidelines on International Protection No. 8: Child Asylum Claims under Articles 1(A)2 and 1(F) of the 1951 Convention and/or 1967 Protocol relating to the Status of Refugees*, 22 Dec. 2009, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b2f4f6d2.html>, para. 49. See also, *Matter of S-E-G-, et al.*, 24 I&N Dec. 579, U.S. Board of Immigration Appeals, 30 July 2008, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4891da5b2.html>,

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

37. ギャングに加わることを拒絶したといった過去の行動や経験は、不可逆であり、したがって変更不能と考えられうる。<sup>57</sup>たとえば、*Matter of S-E-G* (2008年)で、米国出入国管理不服申(し)立て審査委員会は、「ギャングによる加入強要の標的とされ、それに抵抗した青年は、ある過去の経験を共有しているということができ、またその経験は、当然、変えることができない」と認定した。<sup>58</sup>そして、ギャングに強制的に加入させられた人の事案では、過去におけるギャングとのつながりは、変更不能な特性と言いうる。

#### 良心と人権の行使にとって基本的な特性

38. たとえば、加入強要から逃れることによって犯罪への関与に抵抗する、あるいはギャングの行動に反対することは、その人の良心と人権の行使の基本となる特性と見なされる。ギャングに対する抵抗の核にあるのは、法の支配<sup>59</sup>を尊重しようとするその人による意志であり、ギャングに加わることを拒否する人々の場合、結社しない自由を含めた結社の自由を尊重しようとするその人による意志でもある。<sup>60</sup>元ギャングメンバーは、更正(rehabilitation)と矯正(reform)の権利を行使しようとしていると考える

---

in which the Court acknowledged that “the mutability of age is not within one’s control, and that if an individual has been persecuted in the past on account of an age-described particular social group, or faces such persecution at a time when that individual’s age places him within the group, a claim for asylum may still be cognizable,” p. 583.

<sup>57</sup><sub>57</sub> UNHCR, *Guidelines on Membership of a Particular Social Group*, above fn. 45, para. 6.

<sup>58</sup><sub>58</sub> See *Matter of S-E-G*, above fn. 56.

<sup>59</sup><sub>59</sub> ICCPR, Art. 14.

<sup>60</sup><sub>60</sub> ICCPR, Art. 22; American Convention on Human Rights, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b36510.html>, Art. 16.



原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

こともできるだろう。<sup>61</sup>危険にさらされる倫理観、すなわち「法を遵守すべきである」という意識は極めて基本的な性格を有する倫理観であり、その倫理観を断念することは、ギャングの要求に屈し、犯罪に与することを要求するのに等しいことであり、そのようなことを要求すべきでないと考えるべきである。<sup>62</sup>例えば、米国の裁判所は、「犯罪に反対しているため、ギャングに加わることを拒否する若者」などの集団を、特定の社会的集団として認定している。<sup>63</sup>

39.申請者のなかには、「みかじめ料」やその他の法外な金員を支払うようギャングから圧力をかけられた事業主や公共輸送機関の職員など、職業を遂行する結果として、迫害の恐怖を主張する場合がある。<sup>64</sup>迫害を避けるために仕事を断念することを申請者に要求することは、働く権利を恣意的に奪われない権利の侵害にあたる。職業からの分離が可能でない、あるいは、それが基本的人権の放棄を伴う場合、状況によって、

<sup>61</sup>These fundamental principles underpin ICCPR, Arts. 10(3), 14. See further Human Rights Committee, *CCPR General Comment No. 13: Article 14 (Administration of Justice), Equality before the Courts and the Right to a Fair and Public Hearing by an Independent Court Established by Law*, 13 Apr. 1984, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/453883f90.html>, para. 16; *CCPR, General Comment No. 21: Article 10 (Humane Treatment of Persons Deprived of Their Liberty)*, 10 Apr. 1992, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/453883fb11.html>, paras. 10–13.

<sup>62</sup>*Islam (A.P.) v. Secretary of State for the Home Department Regina v. Immigration Appeal Tribunal and Another Ex Parte Shah (A.P.) (Conjoined Appeals)*. UNHCR Intervening: *Case for the Intervener*, 25 Mar. 1999, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3eb11c2f4.html>; *Doe v. Holder*, UNHCR, *Amicus Curiae*, above fn. 28, p. 27.

<sup>63</sup>*Orozco-Polanco (Re)*, above fn. 46.

<sup>64</sup>See, for instance, *RRT Case No. 0906782*, RRTA 1063, Australia, Refugee Review Tribunal, 24 Nov. 2009, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b5708f42.html>, where the recognized particular social group was “bus, public transport and truck drivers.”

<sup>65</sup>International Covenant on Economic, Social and Cultural Rights, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b36c0.html>, Arts.2(2), 6.

<sup>66</sup>*RPD File No. TA7-04670, TA7-04671, TA7-04672*, above fn. 42. The principal applicant was targeted by an organized crime gang as a result of articles he had written. The Board found that “the PC is a XXXXX and he should not be expected to abandon his vocation and go into hiding in another location in Mexico”.

<sup>67</sup>“Family” or “kinship ties” have been recognized by several jurisdictions as constituting a “particular social group” for the purpose of the refugee definition. See, for instance, *Matter of Acosta*, A-24159781, U.S. Board of Immigration Appeals, 1 Mar. 1985, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b6b910.html>; *Sanchez Trujillo v. INS*, 801 F.2d 1571, U.S. Court of Appeals for the 9th Circuit, 15 Oct. 1986, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4a3a3af50.html>. The Court noted that “perhaps a prototypical example of a ‘particular social group’ would consist of the immediate members of a certain family, the family being a focus of fundamental affiliational concerns and common interests,” para. 26.

<sup>68</sup>See, for instance, *Orejuela v. Gonzales*, 423 F.3d 666, U.S. Court of Appeals for the 7th Circuit, 8 Sep. 2005, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7a9a0a2.html>. The applicant was targeted by FARC (Revolutionary Armed Forces of Colombia) which had killed her husband. The Court granted the application based on the fact that the political opinion of her husband had been imputed to her. See further, *Del Carmen Molina v. INS*, above fn. 33.

<sup>64</sup>See, for instance, *RRT Case No. 0906782*, RRTA 1063, Australia, Refugee Review Tribunal, 24 Nov. 2009, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b5708f42.html>, where the recognized particular social group was “bus, public transport and truck drivers.”

原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

申請者の職業にもとづく集団を特定の社会的集団として認めることができる。<sup>65</sup>これには、ギャングが行う犯罪を調査したジャーナリストや政府のエージェントの一部として、不正なふるまいを報告した元犯罪取締機関の職員も含まれる。<sup>66</sup>

40. 「ギャング抵抗者」(またはギャングメンバー)の家族も、同じ家族であるという理由で、例えば、その家族が、ギャングに反対していたという経歴が知られているため、迫害を受けるおそれがある。そのような場合、申請者の「家族」は、難民条約上の社会的集団に当たる特定の社会的集団と考える。<sup>67</sup>また、この場合以外にも、上述の集団の家族は、その集団の構成員であるとの誤解故に迫害を受ける可能性がある。<sup>68</sup>

<sup>65</sup> <sup>65</sup> International Covenant on Economic, Social and Cultural Rights, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b36c0.html>, Arts.2(2), 6.

<sup>66</sup> RPD File No.TA7-04670, TA7-04671, TA7-04672, above fn. 42. The principal applicant was targeted by an organized crime gang as a result of articles he had written. The Board found that “the PC is a XXXXX and he should not be expected to abandon his vocation and go into hiding in another location in Mexico”.

<sup>67</sup> “Family” or “kinship ties” have been recognized by several jurisdictions as constituting a “particular social group” for the purpose of the refugee definition. See, for instance, *Matter of Acosta*, A-24159781, U.S. Board of Immigration Appeals, 1 Mar. 1985, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b6b910.html>; *Sanchez Trujillo v. INS*, 801 F.2d 1571, U.S. Court of Appeals for the 9<sup>th</sup> Circuit, 15 Oct. 1986, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4a3a3af50.html>. The Court noted that “perhaps a prototypical example of a ‘particular social group’ would consist of the immediate members of a certain family, the family being a focus of fundamental affiliational concerns and common interests,” para. 26.

<sup>68</sup> See, for instance, *Orejuela v. Gonzales*, 423 F.3d 666, U.S. Court of Appeals for the 7<sup>th</sup> Circuit, 8 Sep. 2005, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7a9a0a2.html>. The applicant was targeted by FARC (Revolutionary Armed Forces of Colombia) which had killed her husband. The Court granted the application based on the fact that the political opinion of her husband had been imputed to her. See further, *Del Carmen Molina v. INS*, above fn. 33.

<sup>66</sup> RPD File No.TA7-04670, TA7-04671, TA7-04672, above fn. 42. The principal applicant was targeted by an organized crime gang as a result of articles he had written. The Board found that “the PC is a XXXXX and he should not be expected to abandon his vocation and go into hiding in another location in Mexico”.

<sup>67</sup> “Family” or “kinship ties” have been recognized by several jurisdictions as constituting a “particular social group” for the purpose of the refugee definition. See, for instance, *Matter of Acosta*, A-24159781, U.S. Board of Immigration Appeals, 1 Mar. 1985, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b6b910.html>; *Sanchez Trujillo v. INS*, 801 F.2d 1571, U.S. Court of Appeals for the 9<sup>th</sup> Circuit, 15 Oct. 1986, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4a3a3af50.html>. The Court noted that “perhaps a prototypical example of a ‘particular social group’ would consist of the immediate members of a certain family, the family being a focus of fundamental affiliational concerns and common interests,” para. 26.

<sup>68</sup> See, for instance, *Orejuela v. Gonzales*, 423 F.3d 666, U.S. Court of Appeals for the 7<sup>th</sup> Circuit, 8 Sep. 2005, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7a9a0a2.html>. The applicant was targeted by FARC (Revolutionary Armed Forces of Colombia) which had killed her husband. The Court granted the application based on the fact that the political opinion of her husband had been imputed to her. See further, *Del Carmen Molina v. INS*, above fn. 33.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

### 社会からの受け止められ方アプローチ

41.社会からの受け止められ方アプローチも、条約上の理由に該当する社会的集団の把握に有効と思われる。ギャングによって実質的に支配された人間関係の濃厚な地域社会でしばしば見られるように、人々がギャングに反対することが危険な文化的状況では、ギャング抵抗者は、社会から阻害される場合がある。ギャングの加入強要その他のギャング関連慣行の標的となる人々は、若者であることや性別に加えて、それぞれの出自、社会的背景や階級などの理由により、社会から社会的集団とみなされる場合がある。<sup>69</sup>ある地域やバックグラウンド出身の若者が、たびたびギャングの加入強要、脅迫による強奪、その他の目的の標的となっている例は枚挙にいとまがない。<sup>70</sup>

42.ギャングのメンバーとみなされていることは、若者である場合や、ギャング構成員であると間違っ受けて止められているが実際にはギャングとのつながりのない人の場合、条約上の理由に該当する社会的集団のメンバーにあたると評価されうる。たとえば、ギャング構成員が逮捕されたときにたまたま居合わせた青年は、誤ってギャング構成員とみなされる場合がある。したがって、ギャングが、ある特定の都市の一部の地域を事実上支配している場合、若者がその地域社会との結びつきにより、標的になることは十分にありうる。ギャング構成員の友人である若者も、標的とされる場合がありうる。

### 過去または現在ギャングとつながりのある申請者に関する特別な考慮事項

43.現在または過去にギャングとの自発的なつながりを持っている、または持っていた個人にかかわる難民の主張は、申請者が本当に特定の社会的集団の構成員であるかどうか慎重に検討する必要がある。UNHCRの見解では、ギャング組織の自主的構

---

<sup>69</sup>Social groups with low socio-economic status have been recognized by some jurisdictions. See, for example, *MA6-03043*, CanLII 47104, Canada, Immigration and Refugee Board, 29 Feb. 2009, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7aa3662.html>, which recognized that “poor Haitian women with HIV/AIDS” can constitute a particular social group; *MA0-06253*, CanLII 26873, Canada, Immigration and Refugee Board, 18 Jan. 2001, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7aa5692.html>, which found that “in a country where major landholders, with impunity and the use of violence, still oppose agrarian reforms designed to provide poor and disadvantaged peasants with a minimum of dignity and chance for survival, membership in such an agricultural cooperative is a sacred and essential right which no one should be compelled to waive”. See also, *RRT Case N98/22948*, above fn. 26.

<sup>70</sup>USAID, *Central America and Mexico Gang Assessment Report*, above fn. 11, p. 15. See further Goodwin-Gill and Jane McAdam, *The Refugee in International Law*, 2007 ed., pp. 85–86; Michelle Foster, *International Refugee Law and Socio-Economic Rights, Refuge from Deprivation*, 2007, pp. 303–313.

原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

成員であることは通常、難民条約上の意味での特定の社会的集団の構成員であることを意味しない。そのような集団の犯罪的性質ゆえに、そのような帰属を保護される特性と見なすことは、人権、その他の難民条約上の人道的諸原則と矛盾しよう。<sup>71</sup>

44. そのような場合、申請者がギャングに加わった状況を考慮することが重要である。ギャングに強制的に加入させられた者は基本的に、犯罪に関与した人物ではなく、ギャング行為の犠牲者と考えられるだろう。これは特に、ギャングからのプレッシャーに抵抗する(より)能力や手段に乏しい若者にあてはまる。必要な成熟や精神的能力を欠いている子どもは、通常ギャングに自発的に参加したとはみなされない。<sup>72</sup> ギャングとのつながりが自主的に発生した場合であっても犯罪的活動に参加した者や有罪判決を受けた者を含め、元ギャングメンバーは、自身のギャング組織とのつながりを告発し、ギャング組織から確実に離脱した場合は、特定の社会的集団を構成する場合もある。そのような場合、申請者が逃れようとしているのが迫害からであるか、それとも通常の法違反に対する訴追/処罰からであるかを判断することが重要である<sup>73</sup>。また、除外条項のいずれかが適用されるかどうかを検討することも必要である(これについては(g) 除外の項でさらに詳しく議論している)。

#### (iv) 政治的意見

45. ギャング関連の難民の主張は、申請者のギャングに対する実際の政治的意見または申請者が有するとみなされた政治的意見という観点からも分析する余地がある。また、ギャングに対する国の政策やギャングを標的とするある特定の社会階層(例えば自警団グループ)に対する実際の政治的意見または申請者が有するとみなされた政治的意見という観点からも分析する余地がある。UNHCRの見解では、政治的意見の概念は、「国家、政府、社会または政策の仕組みが関係しうるあらゆる問題に関する

<sup>71</sup> <sup>71</sup> In *Arteaga v. Mukasey*, 511 F.3d 940, U.S. Court of Appeals for the 9th Circuit, 27 Dec. 2007, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b6be7662.html>, the Court noted that “to do as Arteaga requests would be to pervert the manifest humanitarian purpose of the statute in question and to create a sanctuary for universal outlaws. Accordingly, we hold that participation in such activity is not fundamental to gang members’ individual identities or consciences, and they are therefore ineligible for protection as members of a social group”, at 946. See also, *Chacon v. INS*, 341 F.3d 533, U.S. Court of Appeals for the 6th Circuit, 18 Aug. 2003, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b6bf1ac2.html>.

<sup>72</sup> <sup>72</sup> In *Canada (Minister of Citizenship and Immigration) v. X*, CanLII 47735, Canada, Immigration and Refugee Board, 31 May 2007, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7a9d2d2.html>, the Board adopted the reasoning in *Poshteh v. Canada (Minister of Citizenship and Immigration)*, A-207-04, 2005 CAF 85, Canada, Federal Court of Appeal, 4 Mar. 2005, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/47e0e21b2.html>, i.e. that “in the case of a minor under the age of 12, for example, it would be highly unusual for there to be a finding of membership [in a criminal organization, in this case a gang]” and that “[T]here is a continuum that the closer the minor is to age 18, the greater the presumption of understanding of his actions.”

<sup>73</sup> <sup>73</sup> UNHCR, *Handbook*, above fn. 39, paras. 56–59.

原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

あらゆる意見」を包含するよう広義に理解する必要がある。<sup>74</sup>

46. 難民条約上の理由である政治的意見は、出身国の具体的な地理的、歴史的、政治的、法的、司法制度的、社会文化的状況の現実を反映する必要がある。<sup>75</sup> 状況によっては、ギャングの活動や国家のギャングに関連した政策に対する異議を表明することは、権力を握っている人々の方法と政策に対する批判的な意見に相当するとみなされる場合があり、したがって、難民の定義中に言われているところの「政治的意見」を構成する場合がある。

47. 特に中米という状況では、マラ団のような強大な力を持ったギャングが社会を直接支配し、自分たちの活動地域で事実上権力を行使している場合があることを考慮することが重要である。ギャングと国家の特定の主体の活動が密接に絡み合い、ギャングが国家のある一部または個々の役人に対し直接的、間接的影響力を及ぼす場合がある。犯罪的活動に国家の主体が関与している場合、犯罪行為への反対は、国家当局への反対に等しいと考えられる。このように、そのようなケースは、状況によっては、政治的意見という難民条約上の理由の範囲内で分析するのが適切な場合がある。<sup>76</sup> 犯罪行為への反対または、逆に言えば、法の支配に対する支持が政治的意見に該当する場合があると認めた法域もある。<sup>77</sup>

48. 異議を唱えることがすべて政治的意見に相当するわけではないが、異議が政治的

---

<sup>74</sup> UNHCR, *Guidelines on International Protection No. 1: Gender-Related Persecution Within the Context of Article 1A(2) of the 1951 Convention and/or its 1967 Protocol Relating to the Status of Refugees*, 7 May 2002, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3d36f1c64.html>, para. 32. This interpretation has also received support in academic commentary; see for instance, Goodwin-Gill and Mc Adam, *The Refugee in International Law*, above fn. 70, p. 87.

<sup>75</sup> *Refugee Appeal Nr. 76044*, New Zealand, Refugee Status Appeals Authority, 11 Sep. 2008, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/48d8a5832.html>, para. 84.

<sup>76</sup> See, for instance, *Emilia Del Socorro Gutierrez Gomez v. The Secretary of State for the Home Department*, above fn. 22, which noted that “the risk of extortion threats from a criminal gang will not normally be on account of political opinion, but in some societies where criminal and political activities heavily overlap, the picture may be different”, para. 40; *Vassilev v. Canada (Minister of Citizenship and Immigration)*, CanLII 5394 (F.C.), 131 F.T.R. 128, Canada, Federal Court, 4 July 1997, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b6bf8502.html>. The Court found that “in this case criminal activity permeates State action. Opposition to criminal acts becomes opposition to State authorities. On these facts it is clear that there is no distinction between the anti-criminal and ideological/political aspects of the claimant’s fear of persecution. One would never deny that refusing to vote because an election is rigged is a political opinion.”

<sup>77</sup> The U.S. Immigration Court, for instance, has found that the applicant had the political opinion of “believing in following the rule of law and earning an honest living and of opposing gang lifestyle and its accompanying illegal activities”. See *Matter of Orozco-Polanco*, above fn. 46.

原文：UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

信念に根ざしている場合は政治的な異議とというる。<sup>78</sup>申請者がギャングの振舞いに政治的または、イデオロギー的に反対することを理由にギャングの地歩拡大を拒否しており、申請者が反対していることにギャングが気づいている（可能性がある）場合、申請者は自身の政治的意見により標的とされていると解することができる。<sup>79</sup>

49.状況によっては、政府の方針に対する反対や、当局によるギャング関連の犯罪の捜査に反対したことが理由で危害を恐れる申請者も、政治的意見による難民として認定されることがあるだろう。そのような行動は、法と秩序を維持できない国家の無能に対する批判と見なされる場合もあれば、国家機関のあいだにある腐敗の告発を含意している場合もある。<sup>80</sup>ギャング活動が当局の一部と密接に絡み合っている場合、あるいは申請者が国家のエージェントによる腐敗やその他の違法な措置に対する「内部告発者」の役割を果たした場合、政治的意見という理由は特に重要となろう。<sup>81</sup>

50.場合によっては、申請者の意見が反対ではなくむしろ中立的と評価される場合がある。<sup>82</sup>たとえば、ある人が、自分は現状で満足しているとギャングに告げ、ギャングに加わるのを明示的に辞退している場合などがこれにあたる。そのような状況では、中立は意見の欠如でなくむしろ申請者の意識的で慎重な選択であり、政治的意見を構

---

<sup>78</sup> <sup>78</sup> (*Attorney General*) v. *Ward*, 2 S.C.R. 689, Canada, Supreme Court, 30 June 1993, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b673c.html>. The Court found that “Not just any dissent to any organization will unlock the gates to Canadian asylum; the disagreement has to be rooted in a political conviction.”

<sup>79-79</sup> *Klinko v. Canada (Minister of Citizenship and Immigration)*, 3 F.C. 327; [2000] F.C.J. No. 228, Canada, Federal Court, 22 Feb. 2000, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/403f18574.html>.

<sup>80</sup> <sup>80</sup> See, for instance, *TA2-15177*, CanLII 55276, Canada, Immigration and Refugee Board, 7 Mar. 2003, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7aa7032.html>, which involved a claimant from Peru whose knowledge of misappropriation of funds in the government resulted in threats against his family and the kidnapping of his sister. The claimant was found to have a well-founded fear of persecution by reason of imputed political opinion; *Demchuk v. Canada*, CanLII 8677 (F.C.), Canada, Immigration and Refugee Board, 9 Sep. 1999, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b7aa8572.html>.

<sup>81</sup> <sup>81</sup> *Grava v. INS*, 205 F.3d. 1177, U.S. Court of Appeals for the 9<sup>th</sup> Circuit, 7 Mar. 2000, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4152e0fa6.html>. The Court found that threats against a whistle-blower who reported corrupt behaviour of government officials might be on account of political opinion.

<sup>82</sup> See, for instance, *Sangha v. INS*, 103 F. 3d, 1482, 1487, U.S. Court of Appeals for the 9<sup>th</sup> Circuit, 1997, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4152e0fc15.html>. The Court noted that “in these cases, the victim was recruited by a political group. The victim refused, and the political group threatened death if he did not comply. We reasoned in those cases that the victim’s refusal showed his political neutrality, which was the equivalent of a political opinion, and that the persecutor’s threats were persecution on account of that political opinion.”

<sup>82</sup> <sup>82</sup> See, for instance, *Sangha v. INS*, 103 F. 3d, 1482, 1487, U.S. Court of Appeals for the 9<sup>th</sup> Circuit, 1997, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4152e0fc15.html>. The Court noted that “in these cases, the victim was recruited by a political group. The victim refused, and the political group threatened death if he did not comply. We reasoned in those cases that the victim’s refusal showed his political neutrality, which was the equivalent of a political opinion, and that the persecutor’s threats were persecution on account of that political opinion.”

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

成していると考えざるべき余地がある。これは特に、「政治的に中立であることが危険をはらむ環境」で起こり得る。<sup>83</sup>政治的意見は、肯定形としても、否定形としても表明することができる。間違いなく、加入強要の試みを拒絶することは、反ギャング的感情を伝えるという点では、より伝統的な政治的方法、たとえば市民集会やキャンペーンでギャングの批判を口にするのと同じくらい明確である。<sup>84</sup>

51.政治的意見は、申請者自身が何ら行動せず、何らの意見表明をしていないにもかかわらず、ギャングによって申請者に帰せられる場合がある。<sup>85</sup>ギャングの要求に屈することに対する拒絶は、ギャングによって裏切り行為と見られ、拒絶した人がギャングに反対する意見を実際に表明するかどうかにかかわらず、ギャングは一般的に犠牲者が反ギャング感情を持っていると考える。ギャングの振る舞いに反対する人々に関係している家族は、同じ意見を有していると受け止められる場合がある。<sup>86</sup>

#### e)国内逃避の選択可能性

52.国内逃避または国内移住の選択肢は実効性があり、かつ合理的でなければならない。国家の主体は国家の全領域において権力を行使するものと解されることから、恐れられている迫害が国家の主体に由来し、黙認され、または許容されている場合には、国内移住が実効性を有すると考えられることは通常ない。<sup>87</sup>したがって、これにより、一般に、国家のエージェントがギャング活動の共犯である場合または、国家による恣意的かつ違法な措置に対する恐怖が主張されているケースでは国内移住の可能性は排除される。

53.申請者が非国家エージェントによる迫害を恐れている場合、最初の分析として、移住先候補地提案された代替移転地で申請者を追跡する能力をギャング(またはそれ

<sup>83</sup> *Calderon-Medina (Re)*, No.A 78-751-1981, U.S. EOIR Immigration Court, Newark, NJ, 1 May 2002, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b6bfb332.html>.

<sup>84</sup> *Matter of D-V*, U.S. EOIR, Immigration Court, San Antonio, Texas, (unpublished), 9 Sep. 2004.

<sup>85</sup> An imputed political opinion is defined as a political opinion that is attributed to the asylum-seeker by his/her persecutors. See, *Vasquez v. INS*, 177 F.3d 62, 65, U.S. Court of Appeals for the 1st Circuit, 24 May 1999, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4b6c02142.html>. The Court held that whether correctly or incorrectly attributed, an imputed political opinion “may constitute a reason for political persecution within the meaning of the Act.”

hout family support are even less likely to be able to relocate.”

<sup>86</sup> *Althea Sonia Britton v. Secretary of State for the Home Department*, EWCA Civ 227, U.K. Court of Appeal, 7 Feb. 2003, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/403e49454.html>. The appellant and her family became the targets of a gang for political reasons (her cousins left a political party in which they had been active members, and as result were suspected of betraying it).

<sup>87</sup> UNHCR, *Guidelines on International Protection No. 4: "Internal Flight or Relocation Alternative" Within the Context of Article 1A(2) of the 1951 Convention and/or 1967 Protocol Relating to the Status of Refugees*, 23 July 2003, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3f2791a44.html>, para. 13.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

に類似したその他のグループ) が有するかどうか、そして政府当局がどの程度まで保護を提供できるかどうかを評価する。<sup>88</sup>比較的小さな国で活動しているギャングの手の届く範囲と、大きな国で活動するギャングを区別することが重要である。「マラ」のような中米のギャングの多くは国全域または地域一帯に広がる組織を有していることを考えると、通常、これらのギャングに関する難民の主張で現実的な国内逃避の選択肢は存在しないと思われる。<sup>89</sup>

54.ギャングによる暴力から逃れてきた人々の経験を聞くと、犠牲者がギャングから逃れるために自国内で保護を求めていた、あるいは地域内で移転していたことが明らかになることがしばしばある。ギャングが都市部でも農村部でもそうした人々の所在を突き止め、申請者の自宅や仕事場だけでなく、家族の自宅近くに現れるため、そのような試みは多くの場合失敗している。若者は、大人の援助がない場合、家族の援助なしで移転するのに一層の困難に直面しやすい。

#### f)適用除外

55.難民条約第1条F項に規定された条項は、難民条約第1条A(2)に規定された難民の定義に適合していても、ある種の重大かつ凶悪な行為を犯したために国際的保護に値しないと思われる個人の難民の地位からの排除を規定している。第1条F項は、難民申請者保護の健全性を保護することを意図としており、これは厳密に適用される必要がある。<sup>90</sup>

56.ある申請者が、難民条約第1条F項に該当しうる犯罪行為に関係または関与して

---

<sup>88</sup>Ibid, para. 15.

<sup>89</sup>As noted by WOLA, *A Resource Guide*, above fn. 2, p. 3, “Even if one were able to move to another city, the gang presence is pervasive and relocation would not provide safety from persecution by gangs. Abandoned children wit

<sup>90</sup>Art. 1F stipulates that “the provisions of the 1951 Convention shall not apply to any person with respect to whom there are serious reasons for considering that he [or she] (a) has committed a crime against peace, a war crime, or a crime against humanity, as defined in the international instruments drawn up to make provision in respect of such crimes; b) has committed a serious non-political crime outside the country of refuge prior to his [or her] admission to that country as a refugee; c) has been guilty of acts contrary to the purposes and principles of the United Nations.” UNHCR’s interpretative legal guidance on the substantive and procedural standards for the application of Art. 1F is set out in UNHCR, *Guidelines on International Protection No. 5: Application of the Exclusion Clauses: Article 1F of the 1951 Convention relating to the Status of Refugees*, 4 Sep. 2003, (hereafter: “UNHCR, *Guidelines on Exclusion*”) <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3f5857684.html>; UNHCR, *Background Note on the Application of the Exclusion Clauses: Article 1F of the 1951 Convention relating to the Status of Refugees*, 4 Sep. 2003, (hereafter “UNHCR, *Background Note on Exclusion*”), <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3f5857d24.html>; UNHCR, *Statement on Article 1F of the 1951 Convention*, July 2009, (hereafter “UNHCR, *Statement on Article 1F*”), <http://www.unhcr.org/refworld/docid/4a5de2992.html>, and UNHCR, *Handbook*, above fn. 39, paras. 140–163.



原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

いたことを示す証拠がある場合、裁定者は、除外評価を行う必要がある。<sup>91</sup> UNHCR の除外ガイドラインに留意し、特にギャング関連の難民申請の主張に該当するおもな問題を以下に挙げる。

**(i) ギャングに関する難民申請の主張との関連で見た除外規定を適用すべき行為**

57. ギャングが活動している状況を踏まえれば、難民条約第 1 条 F 項 (b) は、最も重要である。この条項は、「難民としてその国に入国を認められる前に、庇護国外で重大な非政治的犯罪」を犯した人を難民の地位から除外する旨を規定している。<sup>92</sup>

58. (人々の) 恐喝、強盗、謀殺、殺人、凶悪な攻撃、強姦、売春、誘拐、人身取引、薬物および武器取引、その他の凶悪犯罪などのギャングによる犯罪の多くは、通常、難民条約第 1 条 F (b) に該当する重大な犯罪行為と評価。

**(ii) 個人の責任**

59. 除外が正当化されるには、第 1 条 F 項に該当する犯罪に関連した個々人の責任が立証される必要がある。この点との関連で、次の 3 つの問題に取り組む必要がある。

- (i) 除外条項に抵触する行為への申請者の関与；
- (ii) 申請者の精神状態 (犯意)；
- (iii) 個人的責任を否定するだけの根拠<sup>93</sup>

60. 言い換えると、信頼できる確実な情報に基づいて、個人が、必要な精神的要素 (犯意) をもって問題となる犯罪の重要な要素を遂行したこと、またはその遂行に参加したことを判断することが重要である。<sup>94</sup> 状況によって違いはあるが、個人的責任が発生しうるのは次のような場合である。すなわち、(i) 適用除外条項に規定された犯罪を自ら行った場合、(ii) 他人が犯した犯罪について、その犯行を教唆した場合 (例えば、計画、扇動、命令等) または (iii) 第三者の目からみても犯罪の遂行を容易にしたといえる程度に、犯罪の遂行に重要な役割を果たした場合 (例えば、援助、幫助、犯罪集団への参加) である。<sup>95</sup> ギャング関連の難民の主張については、第三の点は特に重要である。

<sup>91</sup> UNHCR’s interpretative legal guidance on the substantive and procedural standards for the application of Art. 1F stated above should be referred to by decision makers when examining asylum claims relating to gangs and other groups involved in criminal activities.

<sup>92</sup> UNHCR, *Background Note on Exclusion*, above fn. 90, para. 37.

<sup>93</sup> *Ibid.*, paras. 50–63.

<sup>94</sup> <sup>94</sup> As reflected in the Rome Statute of the International Criminal Court, 17 July 1998, <http://www.unhcr.org/refworld/docid/3ae6b3a84.html>, Art. 30, the mental element generally required for individual responsibility is “intent” (with regard to conduct or consequences) and “knowledge” (with regard to circumstances or consequences).

<sup>95</sup> UNHCR, *Background Note on Exclusion*, above fn. 90, paras. 50–56.

原文： UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

Note: In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

61.ある個人がギャングの一員であったという事実は、それ自体で、除外規定に該当する行為に対する個人の責任を派生するわけではない。しかし、「重大な非政治的犯罪」に参与したと伝えられているギャングと関係していた申請者の場合は、彼らの活動、役割と責任について徹底した評価を実施する必要がある。場合によっては、ギャングの目的、活動、方法その他の事情によっては、特に凶悪なグループへの参加が自主的にあった場合は、除外規定に抵触する行為の個人的責任が推定されることもありうる。

## V.結論

62.何らかの方法でギャング集団の活動に影響を受けたすべての個人が、国際的保護の資格を得るわけではないことは論をまたない。ギャングの暴力の犠牲者は、たとえば、通常国家が実効的な保護を提供する能力または意志がある場合、難民地位を得る資格はない。犯罪行為の正当な訴追から逃げたギャングメンバーは通常、難民条約の適用基準を満たさない。しかし、状況によっては、国家がギャングの暴力を防止しようとする（まさしくその）方法自体が抑圧的なものとなりうる。さらに、重大な非政治的犯罪を行った人々は通常、犯人ギャングの犠牲者ではなく、普通の犯罪者と考えられ、難民条約の難民保護から除外される。

63.ギャングによる暴力は、とりわけ法の支配が脆弱である場合には、社会の広範囲に影響を及ぼしうる。しかし、ギャングの犠牲者になるリスクが特に高い人々が存在することはもちろんである。彼らがギャングの標的にされやすい背景には、彼らの年齢、職業、社会経済的地位、ギャングへの服従の拒絶などがある。多くの難民申請は、社会から疎外され暴力に巻き込まれた若者からのものである。ギャングが報復すると脅したり、要求に従わせるためプレッシャーをかけたりした場合は、しばしば家族も事件に巻き込まれる。

64.ギャング関連の難民申請の主張において考慮する必要がある複雑な法律問題の1つは、恐れられる迫害と難民条約で列挙されている理由のうち1つないし複数の理由とのつながりを確定することである。この点についての判例は、およそ統一されてるとはいえない。ある法域では、「ギャングの手による」危害が難民条約上の理由に該当しないと主張が行われている。すなわち、難民申請者は、単に金銭やギャング集団による報復といった理由で標的にされているにすぎないという議論である。「特定の社会的集団の構成員であること」という難民条約上の理由が、その「集団」が恐怖の対象である迫害によって定義されるにすぎないとの理由で退けられることもある。

**原文：** UNHCR, “Guidance Note on Refugee Claims Relating to Victims of Organized Gangs” (31 March 2010)

**Note:** In case of dispute over translation, English text shall prevail. (当文書は仮訳であり、正文は原文とします。)

65.この指針で言及している最近の一部の判例に反映されているように、状況によっては、必要な因果関係の結びつきが証明される場合がある。UNHCRは、難民条約の理由の解釈が、新たに登場した集団やグループを包含し、新しい迫害リスクに対応できるだけの包含性と柔軟性が必要であると考え。若者、特に、ギャングの影響力が全面的で強力なコミュニティに住んでいながらギャングに抵抗しようとする若者は、難民条約の特定の社会的集団を構成する場合がある。それだけでなく、ギャング関連の暴力から逃れようとする人々は、彼らの政治的意見により迫害の十分理由のある恐怖を有すると言いうる。特に、犯罪活動と政治活動が重度に重なっている場合には、迫害の十分理由のある恐怖を有すると言える。実効的な国家による保護が欠けている場合、恐怖の対象が、宗教的イデオロギーあるいは民族的イデオロギーを暴力的方法により追求するギャングによる迫害である場合もある。